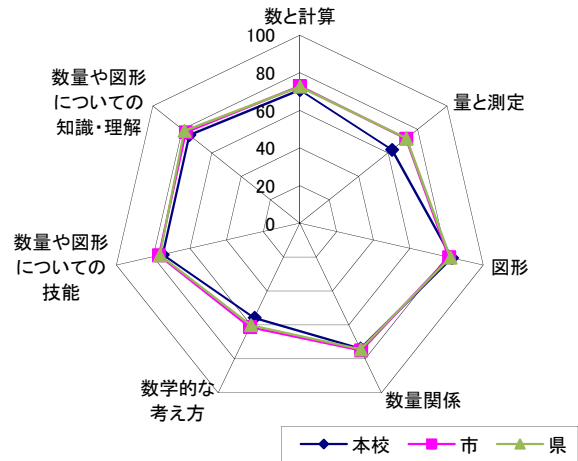


宇都宮市立海道小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.9	72.9	72.6
	量と測定	62.6	72.2	72.3
	図形	82.8	81.3	82.0
	数量関係	73.9	75.0	74.4
観点	数学的な考え方	55.8	61.2	60.1
	数量や図形についての技能	74.8	76.9	76.4
	数量や図形についての知識・理解	75.2	77.6	78.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域別の正答率は70.9%で、県平均を1.7ポイント下回る。 ○3位数×2位数＝4位数の計算問題、整数－1/10の位までの小数の計算問題、数直線上に示された分数の表し方の問題の正答率は72.4%、79.3%、75.9%で、県平均を14.4ポイント、7.5ポイント、20.4ポイント上回る。 ●数の相対的な大きさの問題、小数のしくみの問題の正答率は65.5%、75.9%で、県平均を15.2ポイント、12.6ポイント下回る。	・数の位、数概念や小数のしくみを数直線や位取りの表等を活用して押さえていくだけでなく、授業以外の生活場面、例えば身体計測での数値、体育での記録、友達と何かを分ける等を話題にする際にとり上げていく。 ・今後も、朝の学習や家庭学習でドリルや学習プリントを活用して反復練習を行っていく。
量と測定	●領域別の正答率は62.6%で、県平均を9.7ポイント下回る。 ●ある時刻から一定時間後の時刻をもとめる問題、長さのkmとmの単位の関係の問題、はかりに示された重さを読む問題の正答率はいずれも69.0%で、県平均を13.4ポイント、18.2ポイント、14.6ポイント下回る。	・授業の中で単位の換算を取り上げて指導する。少人数での指導やかがやきルームでの指導と連携を取り合い、個に応じた指導を継続して行っていく。また、長さの単位だけではなく、重さや面積など生活に使われている単位について機会ごとに取り上げ、一層の定着を図る。
図形	○領域別の正答率は82.8%で、県平均を0.8ポイント上回る。 ○円の直径についての問題の正答率は86.2%で、県平均を6.1ポイント上回る。	・引き続き、プリントやドリルを活用し、コンパスや定規の使い方に慣れさせ、正確に作図ができるようにさせる。 ・ICTや少人数指導を利用し、視覚的に図形を捉えさせ、個々の理解度を高める。
数量関係	●領域別の正答率は73.9%で、県平均を0.5ポイント下回る。 ●棒グラフの縦軸の目盛りを読む問題の正答率は82.8%で、県平均を5.3ポイント下回る。	・日常生活の中でグラフを読み取る力や資料の特徴を読み取る力を意図的に取り上げるによりそれらの定着化を図る。 ・グラフを読み、説明する活動を他の教科の授業や日常生活の中で行うことで理解を深める。 ・プリントやドリルで反復練習させ、数量関係の問題への対応力を育てる。